

## A-4: URA組織・人材・役割

開催日時・会場 9月4日(水曜日) 9:00-10:30 B202(2階)

### URA活動の高次元化を実現する 戦略的活動アーカイブ

URAが日本の研究力強化の基盤的役割を担う存在として定着するためには、URA自身が日々生み出す活動やそこで得る情報を有効に蓄積・共有・活用する戦略的活動アーカイブが重要である。このような課題意識のもとに、昨年RA協議会にて参加者ネットワーキングセッションを開催した。セッションに参加した多くのURAが興味を持ちつつも、アーカイブに関しては黎明期であることが明らかになった。

例えばプレアワードでは、URAによる支援によりあるグラントをある研究者が採択したかどうか、という側面にURA活動の評価がフォーカスされがちである。しかし実際には、不採択だった研究者に別の研究資金を紹介し、結果として研究費の獲得、研究の推進につなげる、といった活動に、URA活動の本質的な価値が見える。そのような個々の“点”としての活動を“線”としてつなぎ合わせ、URAしか持ちえない情報を強みとして大学の研究力強化を目指していくことが、URAが基盤的機能として定着するために重要となると考えられる。

本セッションでは、URAの活動アーカイブについて特徴的な取り組みをしている京都大学、大阪大学、茨城大学の事例紹介を中心に、URA活動アーカイブにまつわる課題を共有・議論する。事例紹介では、研究者とのコンタクト情報の蓄積と活用(京都大学)、URA活動を起点にした活動アーカイブ(大阪大学)、科研費レビュー活動の蓄積(茨城大学)の取り組みとそれぞれの大学での背景と課題等について紹介する。またパネルディスカッションでは、研究者情報起点のシステムを構築してきた熊本大学にも加わっていただき、URA活動をアーカイブしていくことの意義と、課題等について総合的に議論する。セッションを通じ、研究力強化に資するURA活動の基盤となる活動アーカイブの形を明確にすることを目指す。

### オーガナイザー

大西 将徳: 京都大学 学術研究支援室(KURA) URA



京都大学大学院人間・環境学研究科修了、博士(人間・環境学)。日本科学未来館 科学コミュニケーター、神戸大学大学院理学研究科 学術研究員等を経て、2017年3月より京都大学学術研究室 URA。理工系グループ URA として工学研究科の研究者のプレアワードから産学連携等の研究力強化に資する活動を展開する傍ら、URA活動のアーカイブ化、CREST・さきがけ等のトップダウン型競争的資金獲得に関するURA活動の基盤整備等を推し進めている。



### 岡崎 麻紀子:京都大学 学術研究支援室(KURA) URA

九州大学生物資源環境科学府修了し博士号(農学)を取得。鳥取大学乾燥地研究センター、九州大学農学部附属演習林、京都大学農学研究科、日本学術振興会特別研究員(PD)を経て2017年11月より現職。森を「ハカル」研究をしていたが、現在はKURA企画・広報グループにて学内ファンド運営や研究力を「ハカル」IR業務等に従事。



### 田上 款:京都大学 学術研究支援室(KURA) URA

北海道大学大学院理学研究科化学専攻修了、博士(理学)。米国・国立衛生研究所・Visiting Fellowを経て、2013年4月より京都大学宇治地区担当URAに着任。2016年4月からはKURA・理工系グループに所属し、広範な京大理工系研究者と伴走しながら研究力の強化を目指す。研究者とURAの“顔の見える関係”をどのように記録していくかに興味を持ち、UAR活動のアーカイブ化に取り組む。

## 講演者



### 高野 誠:大阪大学 経営企画オフィス シニア・リサーチ・マネージャー

1986年日本電信電話株式会社(NTT)入社。同社研究所、研究企画部門等で電気通信システム及びその管理システムの研究・開発や組織マネジメントに従事。研究企画部門では研究成果の事業化企画を統括。2015年大阪大学特任教授/シニア・リサーチ・マネージャ。プレアワードを中心としたリサーチ・マネジメント業務全般に従事。博士(工学)



### 梶野 顕明:茨城大学 研究・産学官連携機構 URA

2012年 名古屋大学工学研究科量子工学専攻博士後期課程修了、博士(工学)。その後、情報通信研究機構未来ICT研究所・研究員を経て、2015年から茨城大学URAとして活動。理工系担当として、科研費含む外部資金申請、産学官連携、IRなどに従事。最近の個人的ホットピックは、「“学問の自由”と“研究経営”との平衡」、「地域イノベーションの起こし方」、「働き方の未来」。

### 藤山 泰成:熊本大学 経営企画本部 主任リサーチ・アドミニストレータ

2011年熊本大学に臨時職員として入職し科研費事務を担当、MS-Accessにより科研費の応募・交付申請・実績報告や分担金受入手続きの受付簿システムを構築。2013年にURAとして転身、科研費獲得支援や研究力分析を担当、現在は大学情報分析室の専任URAとなり、教学IR以外のIRを担当している。前職は、僧侶、日本と中国で高校音楽教師。アカデミックな経験はなかったため、現在、博士後期課程に在籍し「政策評価」について研究中。